

国際光年シンポジウム

ハッブル宇宙望遠鏡 25 周年

～特別写真展と関連イベント開催報告～

縣 秀彦 (国立天文台)、高橋誠光 (コニカミノルタ)、
福士麻衣子 (コニカミノルタ)、板倉 龍 (ニュートン編集部)

1. はじめに

コニカミノルタプラザ (東京・新宿) は国際光年 2015 登録イベントとして特別企画展「ハッブル宇宙望遠鏡 25 周年 時空を超える銀河の旅」[1]を 2015 年 9 月 19 日～10 月 18 日の一か月間実施し数万人の来場者を得ることが出来た。

ハッブル宇宙望遠鏡 (HST) がとらえた天体画像は星の誕生や最期の姿、遙か宇宙に浮かぶ銀河、巨大なブラックホールなど、それまで人類が目にしたことのないほど鮮明なものであり、宇宙の創生と未来についての謎の解明に大きく寄与しただけではなく、圧倒的な美しさで人々を魅了し続けてきた。

本展は、科学雑誌「Newton」((株)ニュートンプレス:監修・協力)と国立天文台の協力により、打ち上げから 25 周年を迎えた現在までの偉大な功績をパネル展示や映像等で分かりやすく解説するほか、膨大な画像の中から、世界中の人々に多くの新たな発見と驚きをもたらした宇宙の姿を厳選し、大判プリントで紹介するなど工夫した。

2. 展示内容

2.1 HST 天体画像厳選 42 点の展示

最大 2.4 メートル幅の大判プリント中心に、大小さまざまな迫力のある天体画像を解説キャプション付きで展示した。

*サイズ 2,400×1,784mm、
2,000×1,498mm など、計 42 点

2.2 HST を学ぶ図解パネルの展示

図解パネルにて、ハッブル宇宙望遠鏡について学べるよう展示した。内容は、天文学者

エドウィン・ハッブル、ハッブル宇宙望遠鏡の歴史、構造と観測機器、天体画像のカラー化、ハッブル宇宙望遠鏡の後継機などを解説。

2.3 映像作品の上映

ハッブル宇宙望遠鏡科学研究所 (STScI) 等が制作した HST 映像作品を上映した。

- ・ハッブル宇宙望遠鏡 25 周年記念ビデオシリーズ全 6 本を日本語字幕付きで上映
- ・天体の疑似 3D 映像など関連映像作品 46 本を上映



図 1 タイトルパネル前にて (2015 年 9 月 29 日) ES0/ESA の Lars Lindberg Christensen 氏 (左)、STScI の Hussein Jirdeh 氏 (中) と縣 (右)



図 2 期間中の館内のようす

3. スペシャル・イベントの実施

3.1 スペシャルトーク（対談）

10月9日(金) 19:00~20:00

縣秀彦(国立天文台) VS 板倉龍(Newton編集部)

参加費：無料 (先着順整理券配布)

定員：50名

(実際は立ち見を含め80名以上が参加)

☆イベントの様子は「USTREAM」にて中継された。現在もVOD上で閲覧可能[2]



図3 スペシャルトーク 対談する板倉(左)と縣。和んだ雰囲気为一体感溢れた会場のようす。

3.2 ギャラリートーク

10月16日(金) 18:00~19:00

会場にいらっしゃる方に各天体写真の見どころを解説した。

参加者数は50名以上



図4 ギャラリートーク

HSTへの関心は高く、専門的な質問も次々と。

4. HST 広報責任者等の来場

2015年8月にホノルルで開催されたIAU総会において、STScIのアウトリーチ責任者 Hussein Jirdeh 博士や ESA/ESO で HST 広報の責任者をしている Lars Christensen 氏に本写真展への協力を依頼したところ、関係者5名の来日が実現し、9月29日に会場と新宿駅周辺にて交流会が開催された。ハッブル宇宙望遠鏡25周年を迎えた2015年は世界各地で関連イベントが開催されたが、これほど充実した写真展は珍しいとハッブル宇宙望遠鏡の広報を担っている NASA と ESA の両広報責任者より評価いただいた。



図5 HST画像を観賞する海外からのゲスト



図6 Carter Emmart 博士(ニューヨーク自然史博物館ヘイデンプラネタリウム)とオリオン大星雲 M42

参照ウェブサイト

[1]<http://www.konicaminolta.jp/plaza/schedule/2015september/hubble/>

[2] <http://www.ustream.tv/recorded/75121899>